

短期予報解説資料 2026年2月2日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 日本付近は冬型の気圧配置が続いている。北海道の西～東北北部付近は気圧の谷となっていて、日本海西部～北陸付近にシーラインがのびている。また、日本海西部を低気圧が南東進している。北日本から東日本では3時間に5cm前後の降雪の所がある。北日本～西日本、南西諸島ではやや強い風が吹き、波が高い所がある。

② 500hPaでは、日本海北部に5160m付近で-39°C以下の寒気を伴うトラフがあつて南東進。また、朝鮮半島付近を5340～5460mの-33°C以下の寒気を伴う



主要じょう乱解説図

トラフが東南東進。ボッ海付近を5460～5580mに-30°C以下の寒気を伴うトラフが東南東進。地上のシーラインが西日本を東南東進しており西日本では3時間に10cmの降雪の所があり、雷を検知している。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 冬型の気圧配置が続くなが、1項①の気圧の谷とシーライン及び低気圧は、2日夜にかけて次第に不明瞭となるが、1項②のトラフがそれぞれ3日はじめにかけて北日本～西日本を通過する。また1項②のシーラインは2日夜にかけて西日本を通過し、3日は日本の東に進んで、その後不明瞭となる。トラフに伴う上空寒気と気圧の谷やシーライン周辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴つて降雪が強まり大雪となる所がある。寒気を伴つたトラフの影響で3日はじめにかけて、これまでの大雪で記録的な積雪となっている青森県を中心に、北日本では大雪による交通障害に注意・警戒し、東日本～西日本では大雪に注意。北日本～西日本では着雪、なだれ、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、冬型の気圧配置やシーラインなどの影響で、強い風が吹き波が高くなる所がある。北日本～西日本と南西諸島では強風や風雪、高波に注意。

② 3日は、高気圧が東シナ海に移動し、冬型の気圧配置は西から緩むが、北日本～東日本では下層寒気の影響が続くため、降雪が断続し、局地的に降雪量が多くなる所がある。北日本～東日本日本海側では、引き続き、大雪や着雪、なだれに注意。

③ 4日は、低気圧がオホーツク海で発達し、別の低気圧がサハリン付近から千島近海に進み、シーラインが北日本～北陸地方付近を通過する。シーラインに向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北日本～東日本では4日は、落雷や突風に注意。北日本～西日本の850hPaでは、気温が平年より5°C前後高くなる。北日本～西日本の積雪の多い傾斜地ではなだれに注意。低気圧やシーラインの影響で、強い風が吹き波が高くなる所がある。北日本では4日は強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：北陸50、北海道40、東北・中国30cm。③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島・近畿・中国・九州北部・九州南部・奄美・沖縄 3m。④ 高潮(明日まで)：注意報基準を超過する所はない。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。